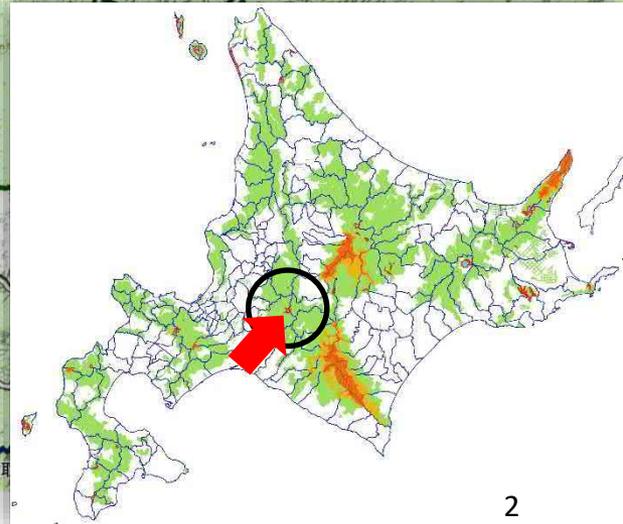
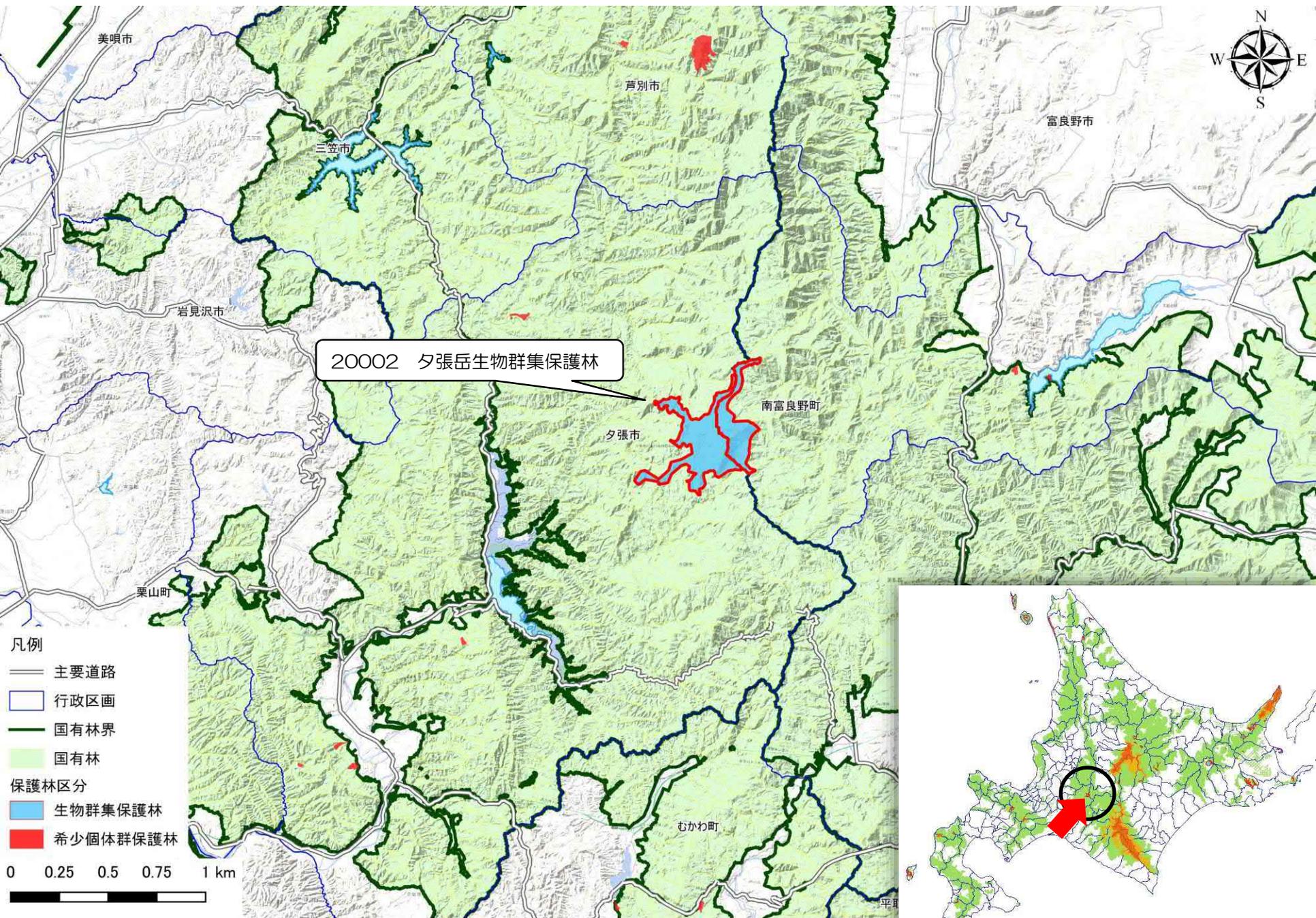


生物群集保護林の地帯区分の検討

令和元年度 地帯区分を検討する生物群集保護林

- 20002 夕張岳生物群集保護林
- 20003 知駒生物群集保護林
- 20004 稚咲内生物群集保護林
- 20005 クッチャロ湖生物群集保護林
- 20007 礼文島生物群集保護林





2007 礼文島
生物群集保護林



2004 稚咲内
物群集保護林

2005 クッチャ口湖
生物群集保護林

2003 知駒
生物群集保護林

凡例

- 主要道路
- 行政区画
- 国有林界
- 国有林

保護林区分

- 生物群集保護林
- 希少個体群保護林

0 0.5 1 1.5 2 km



20002夕張岳生物群集保護林 (1,449 ha)

旧保護林 設定目的 と経緯

・夕張岳周辺は、蛇紋岩、かんらん岩などの超塩基性岩帯で、ユウパリコザクラ、ユウパリソウ、シソバキスミレ等の固有種も多く植物学的にも貴重であることから、昭和50(1975)年4月に「夕張岳高山植物保護林」として設定された。

保護対象 と生息・生 育区域

・保護対象となる超塩基性岩類特有の植物群落は、高山帯植生および高標高域の草地(風衝草原)となっている。

・植生と地質の分布も含め現在の保護林区域内に包括されている。

想定される 影響等

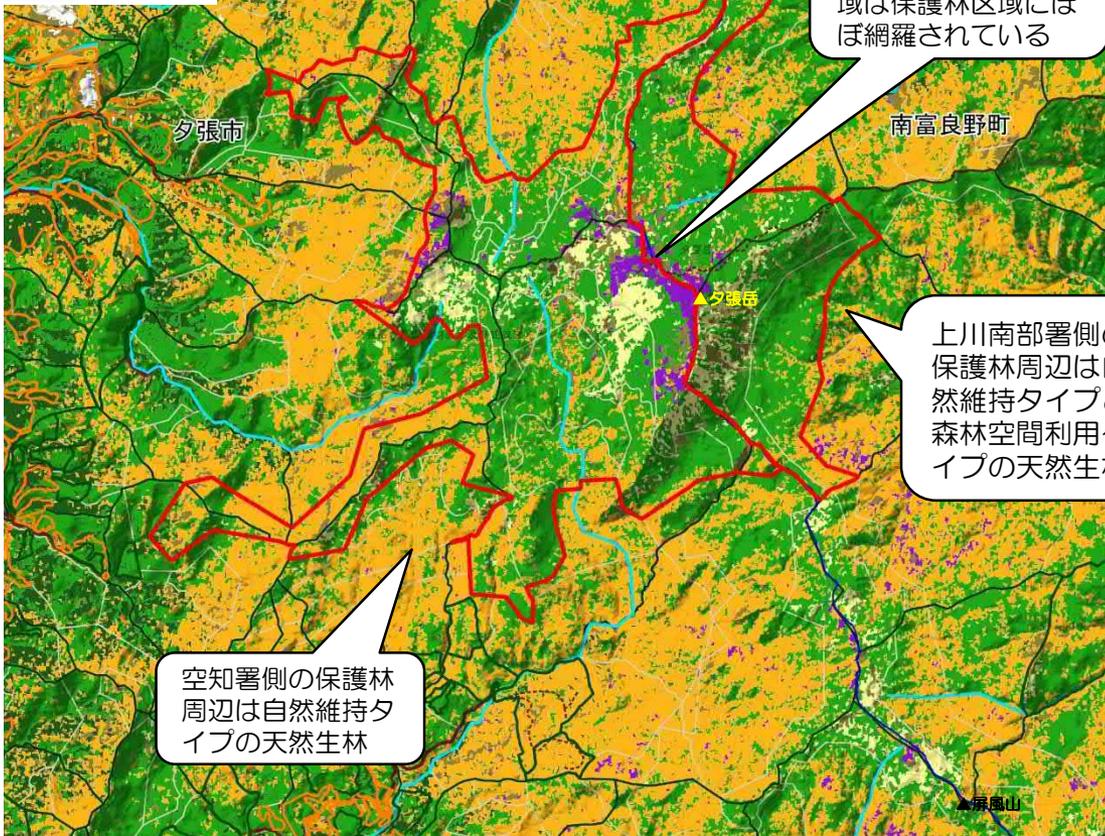
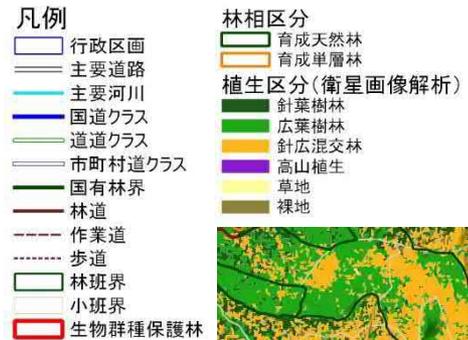
・保護林の外周は全て天然生林に囲まれており、外接する天然生林では、原則、伐採を行わないことにより、環境の急激な変化による保護林及び保護対象への影響は想定されない。

・保護対象の生育する区域は、保護林区域内にほぼ網羅されている。

・登山道によるレクリエーション利用がある。

地帯区分 (案)

保全利用地区は設定しない。



2002夕張岳生物群集保護林
林況写真

↓夕張岳山頂

ガマ岩
↓

夕張岳方向(空知署管内よりドローンで撮影)

保護林南側の林況(空知署管内よりドローンで撮影)

20003知駒生物群集保護林 (1,233 ha)

旧保護林設定目的と経緯

- ・蛇紋岩地帯に成育したアカエゾマツの純林の保護を図り、学術の参考とすることを目的とし、昭和47(1972)年4月に「知駒アカエゾマツ林保護林」として設定された。
- ・蛇紋岩地帯の針広混交林の天然林で、アカエゾマツ、ダケカンバの安定かつ恒久的な保存を図り、主要林業樹種としての林木遺伝資源とすることを目的とし、昭和62(1987)年4月に「旭川アカエゾマツ・ダケカンバ3林木遺伝資源保存林」として設定された。

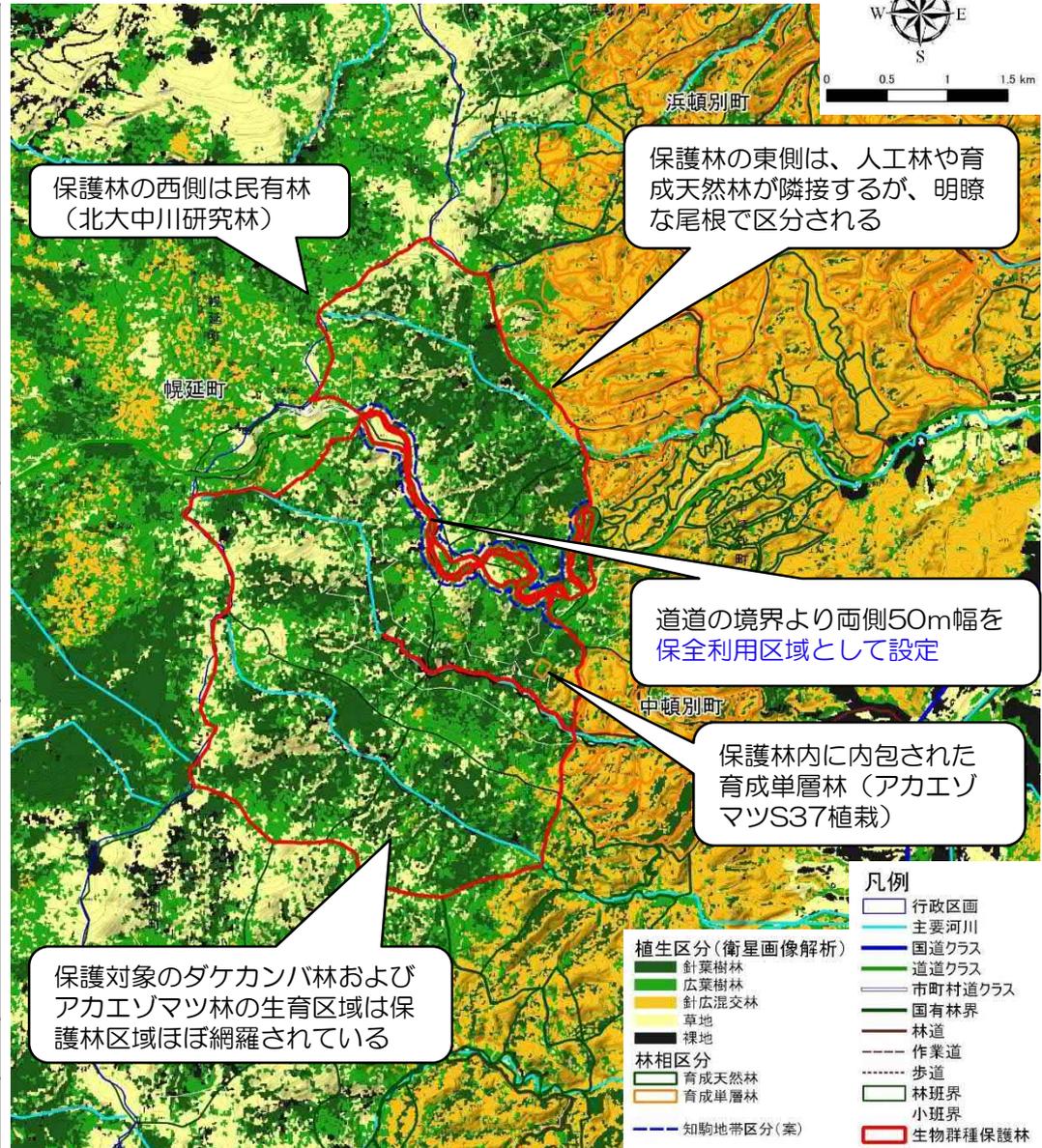
保護対象と生息・生育区域

- ・保護林西部の分水嶺尾根沿いに、ササ・ダケカンバ群落が見られ、国有林内にはアカエゾマツ林が広域に分布。
- ・アカエゾマツ林の密度には濃淡があり林床にはチシマザサが密生する。

想定される影響等

- ・保護林外周には民地(北大中川研究林)や人工林などが接するが、いずれも明瞭な尾根で区切られる。
- ・育成単層林が含まれるが、面積が小さく保全利用地区を設定しがたい。
- ・道道が保護林内を通過するため、両側に50m幅で保全利用地区を設定する。

地帯区分(案)	既存	保存地区	1,233.43 ha
	案	保存地区 保全利用地区 計	1,161.87 ha 61.56 ha 1,233.43 ha

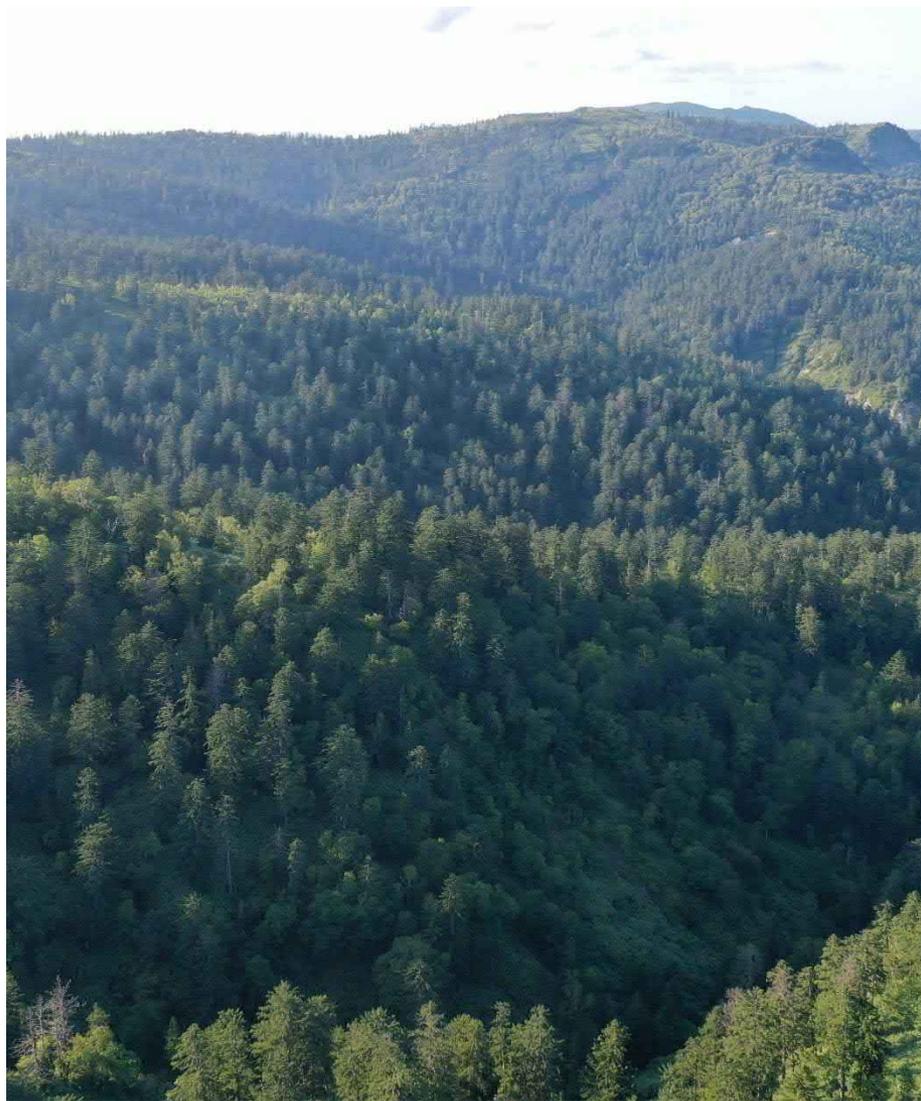


2003 知駒生物群集保護林 山頂部の林況

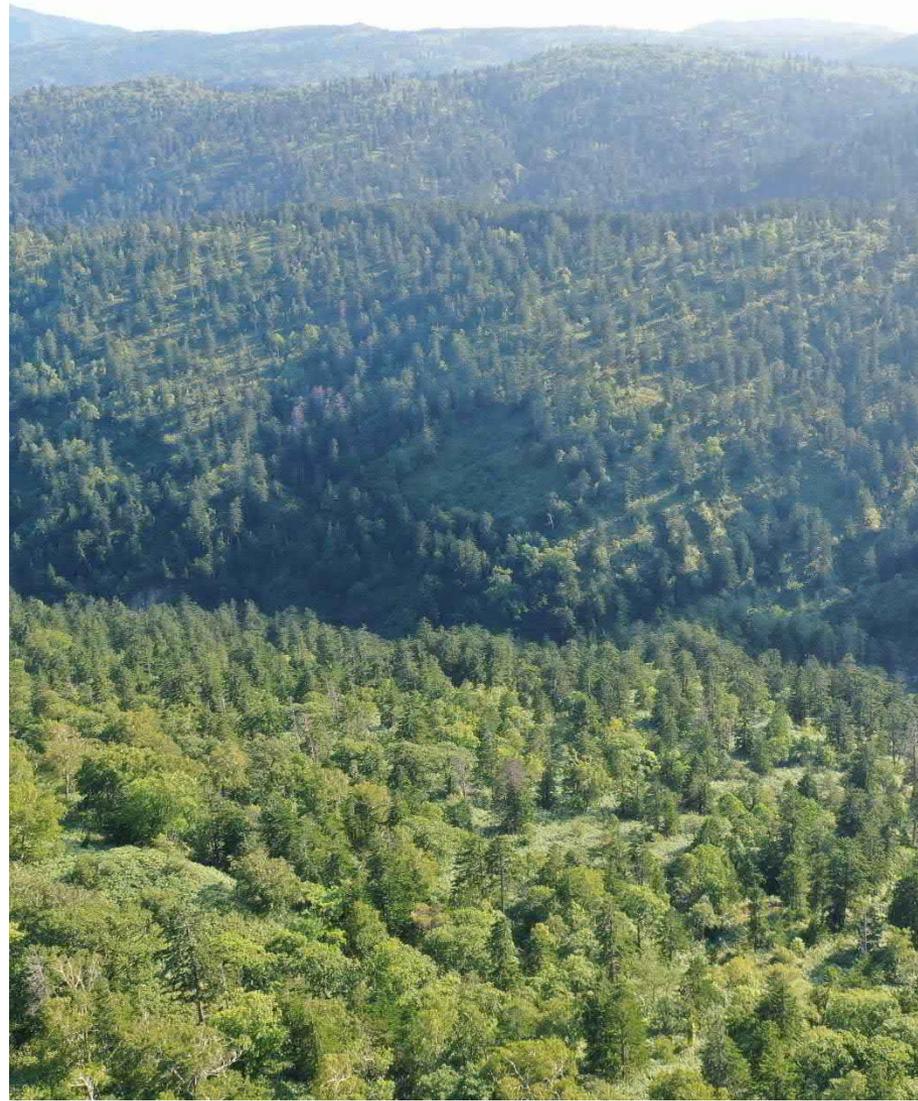
知駒岳山頂の電波施設
↓



20003 知駒生物群集保護林



道道より北側の林況



道道より南側の林況

20004稚咲内生物群集保護林 (2,018ha)

旧保護林 設定目的 と経緯

- ・海岸砂丘林の保護を図り、学術の参考とすることを目的とし、昭和52(1977)年4月に「稚咲内海岸砂丘林保護林」として設定された。
- ・日本海側の海岸段丘に生育する天然のモンゴリナラ及びトドマツの恒久的な保存に努め、林木遺伝資源とするため、昭和62(1987)年4月に「旭川モンゴリナラ、トドマツ6林木遺伝資源保存林」として設定された。

保護対象 と生息・生 育区域

- ・保護対象となる海岸砂丘林は南北に細長く連続して位置する。砂丘上には海岸から内陸のサロベツ原野へ向かい、矮性ミズナラ林やトドマツ・ミズナラ混交林、ハンノキ群落などの樹林帯が見られるほか、砂丘地形に沿って湖沼群と湿性植生群落が帯状に分布しており、保護林区域内にはこれら植生が内包される。

想定される 影響等

- ・保護林は外周が全て民地と接しており、保全利用地区を設定しがたい。
- ・育成単層林が含まれるが、面積が小さく保全利用地区を設定しがたい。
- ・保護林内を道道が通過するが、平坦地であるため公道の改良工事等が必要となる可能性は低いと思われる。

地帯区分 (案)

保全利用地区は設定しない。



20004 稚咲内生物群集保護林 林況写真



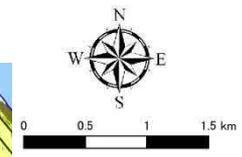
道道444号線より北方向の保護林



←道道444号稚咲内豊富停車場線

道道444号線付近の林況

20005クッチャロ湖生物群集保護林 (384 ha)



<p>旧保護林 設定目的 と経緯</p>	<p>・クッチャロ湖、ポン沼は、コハクチョウを始めとするシベリア方面からの渡り鳥の中継地であり、低湿地を含む周辺森林は水鳥の格好の繁殖地及び生育地となっていることから、水鳥の繁殖及び生育地の保護を目的とし、平成5(1993)年7月に「クッチャロ湖保護林(特定動物生息地保護林)」として設定された。</p>
<p>保護対象 と生息・生 育区域</p>	<p>・保護対象は主に水鳥であり、隣接するクッチャロ湖のほか、保護林内のポン沼においても、多くの野鳥の繁殖・生息地として利用されている。</p>
<p>想定される 影響等</p>	<p>・保護林は外周が全て民地と接しており保全利用区域を設定しがたい。 ・育成単層林が含まれるが、面積が小さく保全利用地区を設定しがたい。 ・保護林内を道道が通過するが、平坦地であるため公道の改良工事等が必要となる可能性は低いと思われる。</p>
<p>地帯区分 (案)</p>	<p>保全利用地区は設定しない。</p>



2005 クッチャロ湖生物群集保護林
林況写真



20005 クッチャロ湖生物群集保護林
林況写真



クッチャロ湖(小沼)

20007礼文島生物群集保護林(2,391ha)

旧保護林 設定目的 と経緯

- ・絶滅のおそれのある野性植物種レブンアツモリソウの保護を図ることを目的として、平成4(1992)年4月に「レブンアツモリソウ群生地保護林〈植物群落保護林〉」として設定された。
- ・礼文島西海岸一帯の野生植物の保護を図ることを目的として昭和52(1977)年4月「礼文島西海岸植物群落保護林」として設定された。
- ・北方常緑針葉樹をはじめとする多様な森林群落が原生的状態で、一定のまとまりをもって分布し、この森林群落と一体となって、チシマザクラ、レブンウスユキソウ等の希少な植物が生育している当該地域の森林を保護することにより、森林生態系に係わる生物遺伝資源を自然生態系内に広範囲に保存することを目的として、平成6(1994)年11月に、「利尻・礼文森林生物遺伝資源保存林」として設定された。

保護対象 と生息・生 育区域

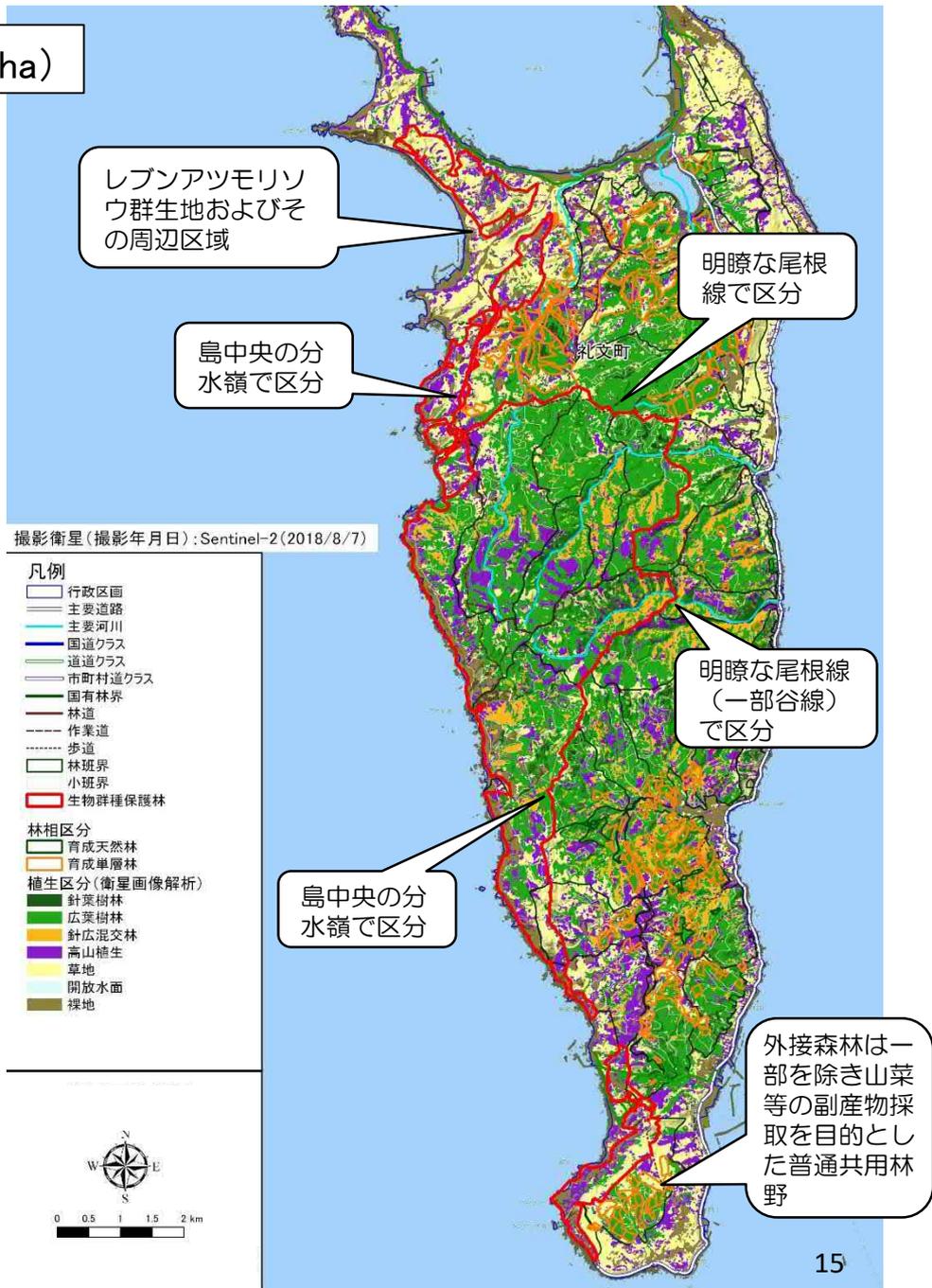
- ・森林生態系に関わる生物遺伝資源の全てが保護対象区域であり、その生息・生育区域は既存保護林区域全域。

想定される 影響等

- ・保護林の境界は島中央部の分水嶺や尾根線・谷線に沿って区分されており、周辺環境の急激な変化による保護林への影響は想定されない。
- ・保護林の東側に隣接する国有林は、一部を除き、山菜等の副産物の採取を目的とした共用林野であり、その行為による保護林への影響は想定されない。

地帯区分 (案)

保全利用地区は設定しない。



20007 礼文島生物群集保護林



旧礼文島西海岸植物保護林(遊歩道海岸線)



旧利尻・礼文森林生物遺伝資源保存林(礼文岳付近)



旧レブニアツモリソウ群生地保護林



桃岩歩道沿いササ草原

20007 礼文島生物群集保護林
礼文岳付近より北側の林況



20007 礼文島生物群集保護林
宇遠内地区海岸線

